ENCYCLOPEDIA OF MENSWEAR,
SEWING AND MAKING PATTERN

メンズ技術大百科

テーラード風カジュアル・ジャケット編

SAMPLE

井口喜正　著

この度は、メンズ技術大百科-テーラード風カジュアルジャケット編-のサンプルをダウンロードして頂き、ありがとうございました。

当サンプルには、B 仕様縫製工程 No.22～No.44 までの合計 8 ページを掲載しています。本編をそのまま抜き出したものである為、ページ数の表示は変更しておりませんのでご了承ください。

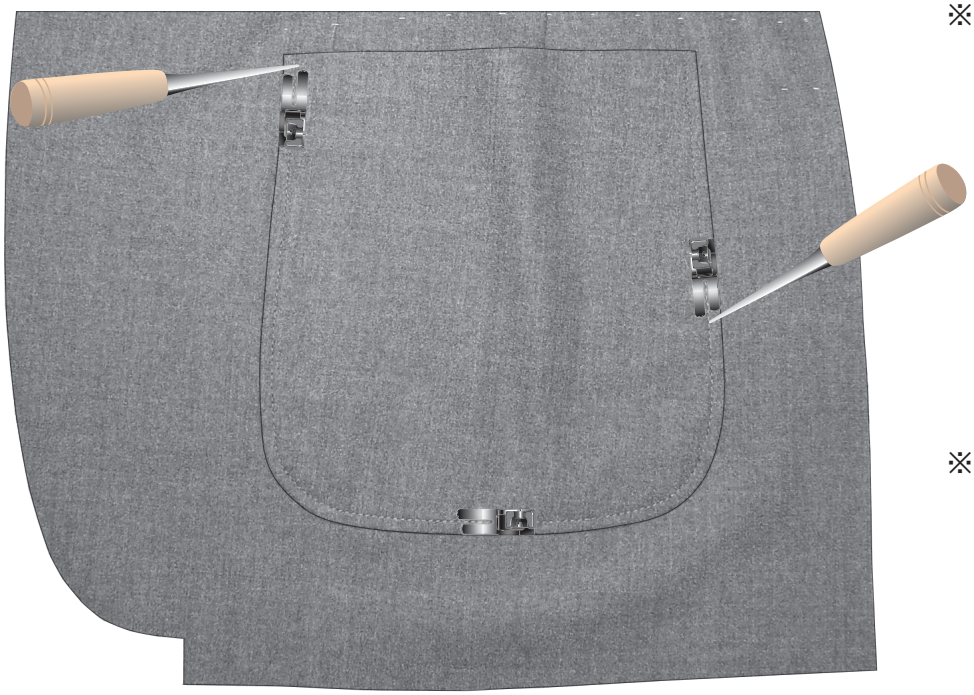
少ないページ数ですが、メンズ技術大百科のクオリティを確認する上での参考にしてください。

尚、当サンプルに関しては、自由に再配布していただいて構いませんが、著作権は放棄しておりませんので改変はしないようにお願いいたします。

それでは、少しの間、メンズ技術大百科にお付き合いください。

井口　喜正

【工程No22】アウト・ポケット　ステッチ掛け

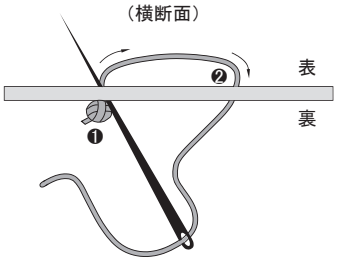


【工程No22説明】
※アウト・ポケットのステッチ掛けです。ステッチ巾は６㎜巾が一番掛け易い巾になります。その理由はアウト・ポケットの出来上がりに押さえ金の端を合わせると６㎜のステッチ巾になるからです。他のステッチも押さえ金を基準にすることで、平行な巾を得ることが出来ます。

※下送りと一緒に目打ちを動かしミシンずれを防ぐことをお勧めします。

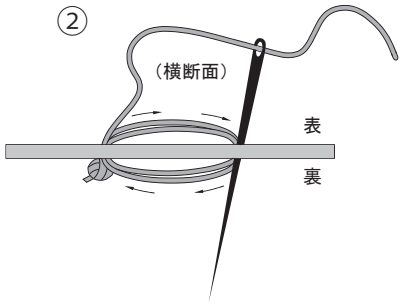
【工程No23】胸腰アウト・ポケット本カンヌキ入れ

①



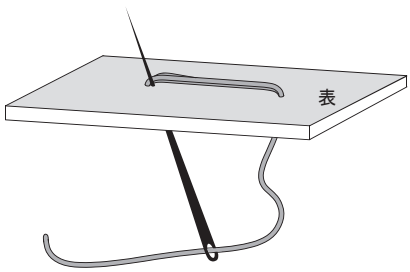
【工程No23-①説明】
※穴糸の最後を結び、カンヌキの始め❶に針を通します。
出した針は、カンヌキの長さ❷に針を入れます。

②



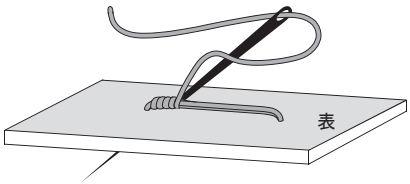
【工程No23-②説明】
※表側の穴糸が３本渡ると、この糸が本カンヌキの台になります。

③



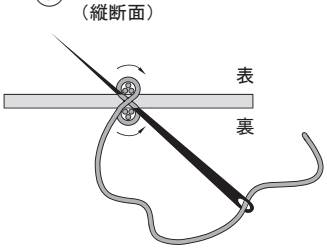
【工程No23-③説明】
※３本渡した台糸の横際から針を出して、台糸を包む様に縫うことで閂に立体感が出ます。

④



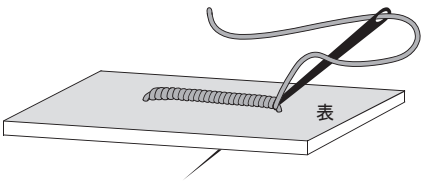
【工程No23-④説明】
※３本渡した台の糸を包むように縫います。

⑤



【工程No23-⑤説明】
※カンヌキを縦の断面から見ると、糸は８の字の様になっています。裏側は多少汚くても大丈夫ですが表側は美しく縫ってください。

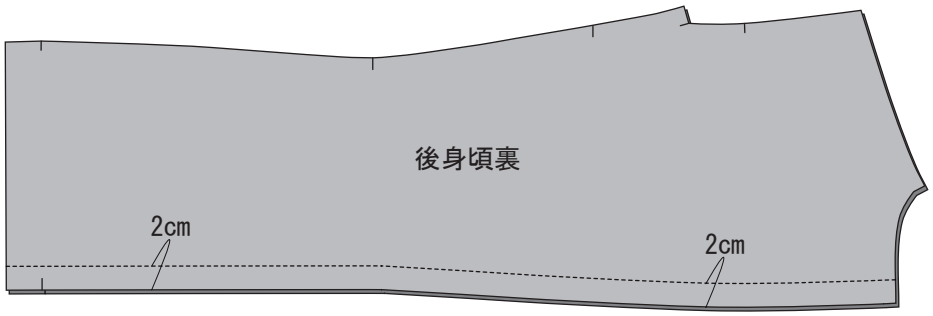
⑥



【工程No23-⑥説明】
※最後まで縫えたら針を裏側へ出して、糸を結ぶか２～３回返し縫いを行えば完了です。

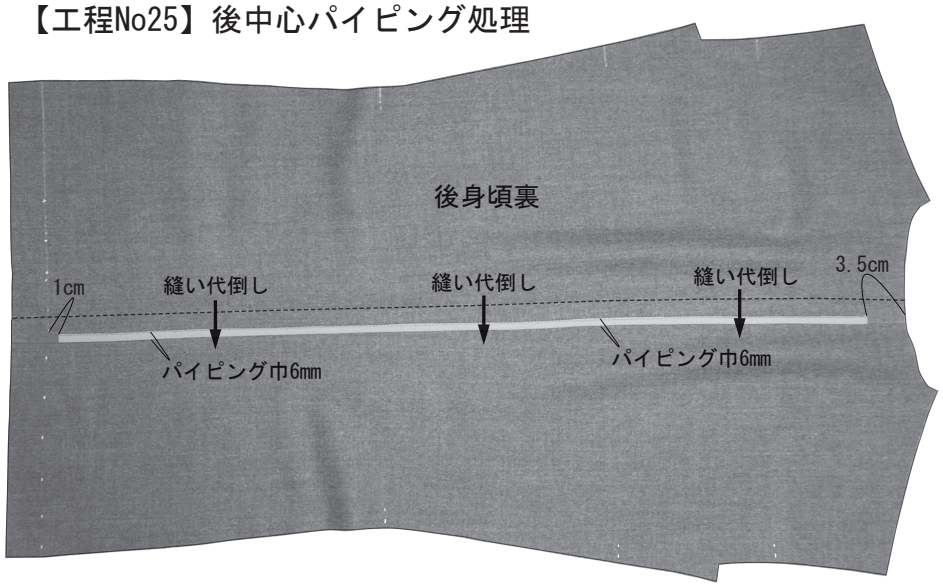
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No24】後身頃の左右後中心合わせ地縫い



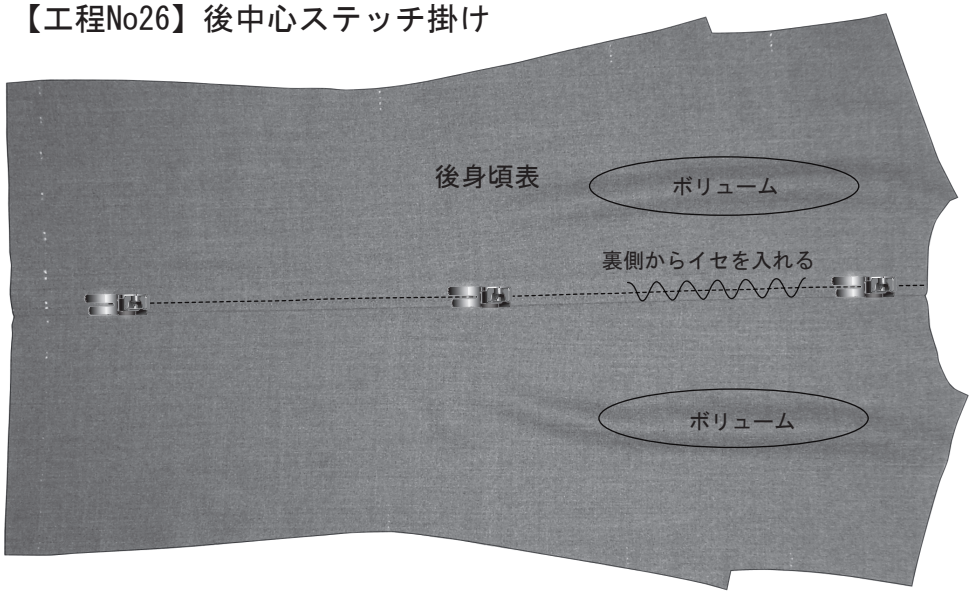
【工程No24説明】
※後身頃を左右合わせて後中心を地縫いします。ここでの後中心縫い代は２cmです。正確に縫ってください。
※難しい場合はステッチ定規を使用し、正確にステッチを掛けてください。

【工程No25】後中心パイピング処理



【工程No25説明】
※裏側から見て、後中心のパイピング処理を左後身頃のみ行う場合、中心の縫い代を割った後、右側縫い代の巾を狭くカットしてください。
※左右一緒にパイピング処理を行う場合、背中心をアイロンで割った後、右側に縫い代をアイロンで倒し、下側に縫い代が出ているか確認します。出ていた場合は縫い代をカットし、揃えてからパイピング処理を行ってください。

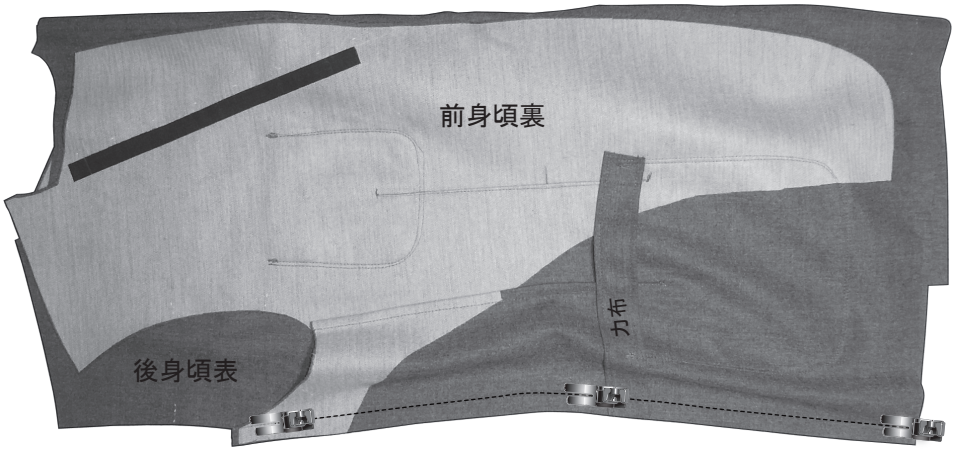
【工程No26】後中心ステッチ掛け



【工程No26説明】
※後中心へステッチを掛ける前に、肩甲骨位置の縫い目を裏側からアイロンでイセると両サイドにボリュームが移動します。
※上記の処理が終了すると後中心の縫い目は平らになり、後中心ステッチ掛けに適した状態になります。
※押さえ金右端を後中心縫い目に合わせてステッチ掛けを行うことで、６mm巾で均一に作業を進めることが出来ます。

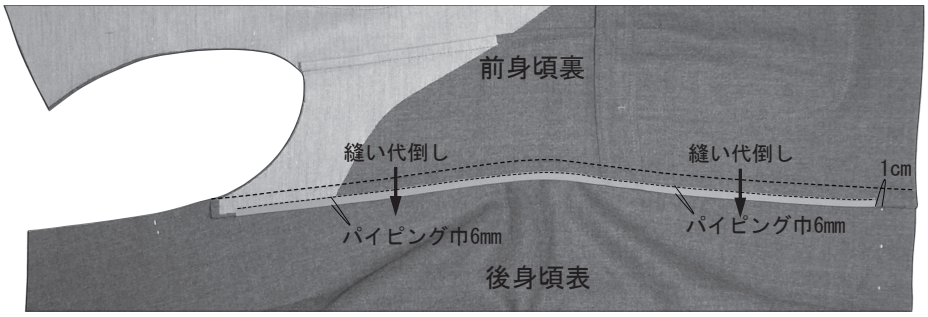
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No27】前身頃・後身頃脇合わせ地縫い



【工程No27説明】
※脇縫いですが、アームホールに近い箇所は後身頃脇の距離が長くなっていることが多いようです。従って脇のミシン地縫いの前に躾仮縫い止めを行ってください。そして長い後身頃をイセながら躾仮縫い止めを行い、アイロン掛けを行ってからミシン掛けを行います。
※左の最後の後身頃と前身頃の角は正確に合わせてください。

【工程No28】前身頃・後身頃脇パイピング処理



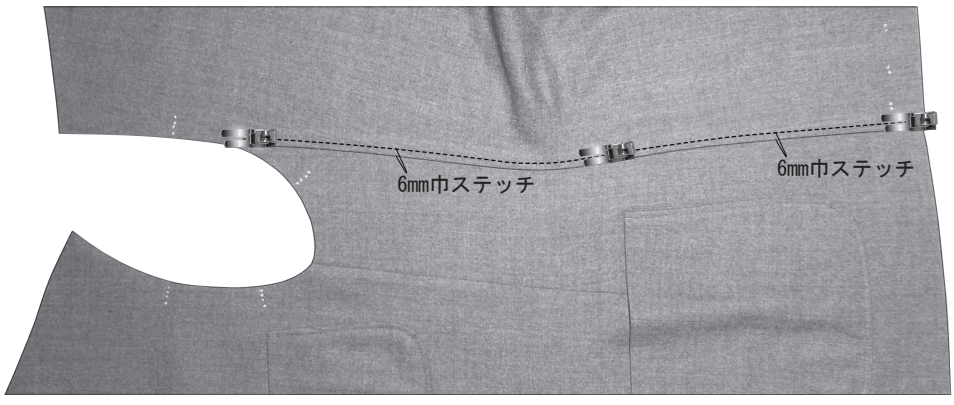
【工程No28説明】
※パイピング処理を行う前に、脇の縫い代をアイロンで割ってから後身頃側へ倒します。
※後身頃脇と前身頃脇縫い代を一緒にパイピング処理しますが、縫いずれを防ぐ為に、躾縫い止めを行ってからのパイピング処理をお勧めします。

【後身頃脇へステッチ掛け準備】



【工程No29の準備説明】
※脇ステッチを掛ける前にラバン馬の上に身頃を乗せてアイロンを掛けますが、直接アイロンを掛けると光る原因になるので、当布を使用し、直接のアイロンは避けてください。
※アイロンは前身頃脇の曲線をベースに掛けます。ウエストの余りは脇の縫い目から離すように後身頃方向にイセながら追い込みます。

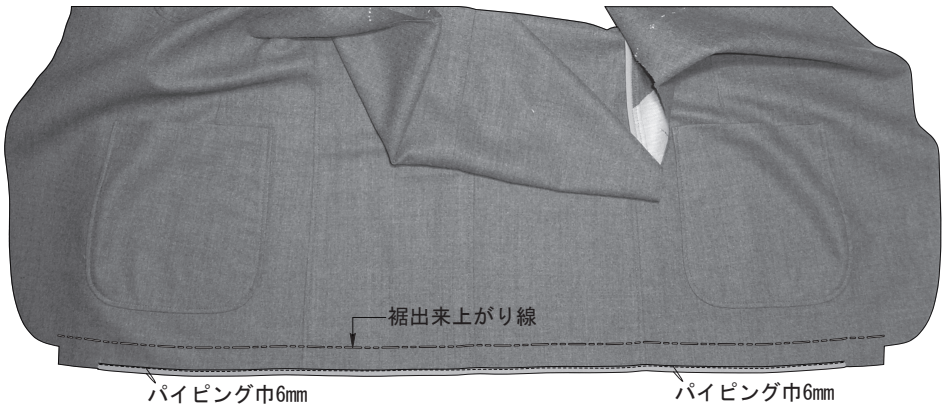
【工程No29】後身頃脇へステッチ掛け



【工程No29説明】
※アイロンで追い込んだウエストの余りは後身頃に移動した状態で後身頃脇にステッチが入ります。ステッチを掛ける際は、ミシンのテンションが強くならないようにミシン調子を確認した上で、ステッチが均一の巾になるようにミシン作業を行ってください。

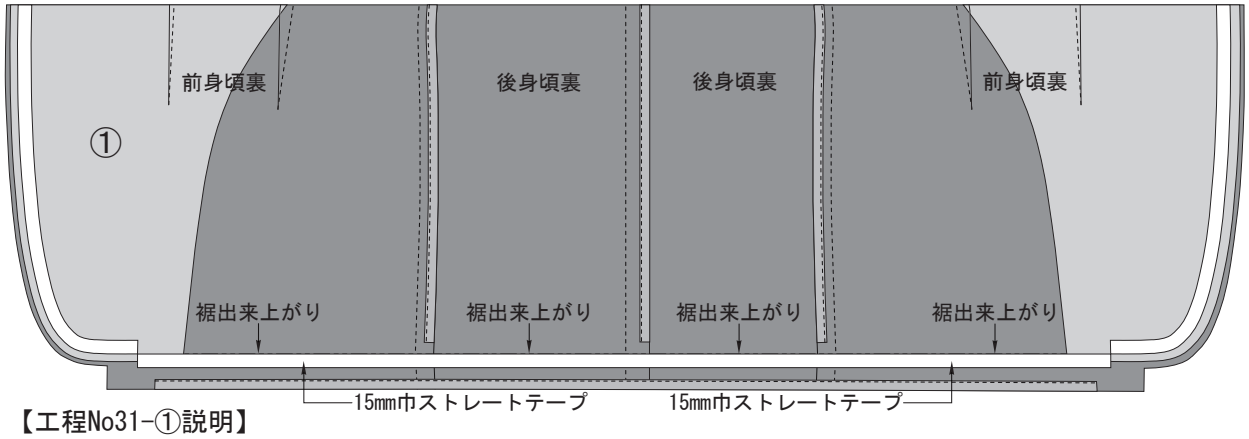
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No30】身頃裾ヘムへパイピング処理

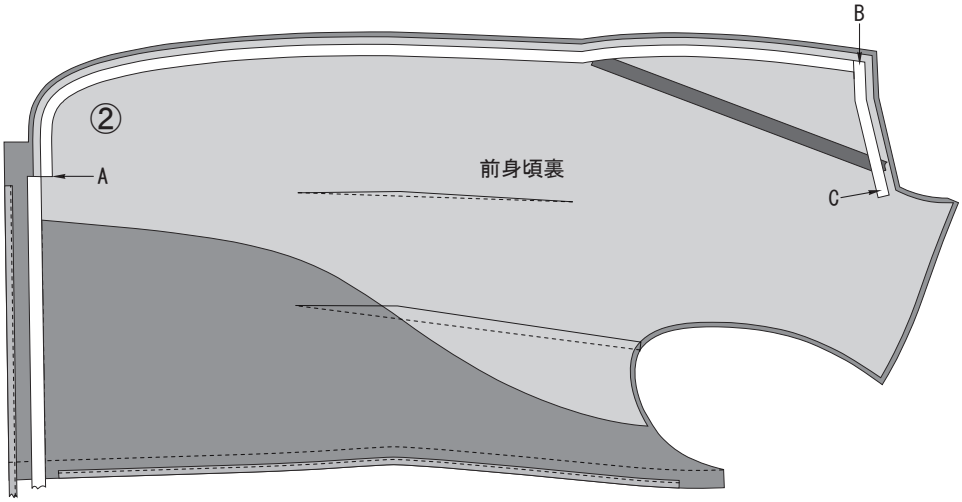


【工程No30説明】
※Ｂ仕様は裾にパイピング処理を行うのでヘム巾は３cmになります。従って裾のステッチ巾は2.5cm巾になります。
※大身返しの裾巾が広いので両端のヘム角いっぱいにパイピング処理を行う必要はありません。当テキストでは、大身返しの裾出来上がりから２cm程、入ったところから行っています。

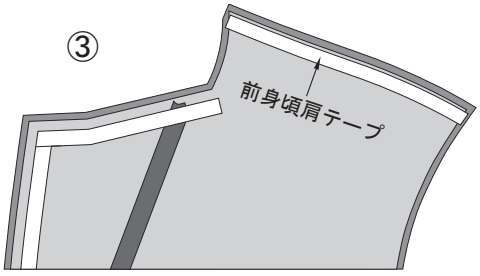
【工程No31】裾ヘム・フロント・ゴージの各箇所テープ貼り



【工程No31-①説明】
※裾は15mm巾ストレートテープをヘム側裾出来上がりに沿って貼ります。基本的にテープは各パーツで貼るのではなく、図の様に一回で貼ることをお勧めします。



【工程No31-②説明】
※フロント・テープはＡからＢ間になります。この部分はデリケートな箇所で、少しのテンションでも前身頃中心が拝んでしまうので、15mm巾のハーフバイアステープかストレッチテープを使用します。
※Ｂ～Ｃ間はゴージです。横バイアスのゴージが伸びないように15mmストレートテープを使用します。



【工程No31-③説明】
※当テキストでは前身頃肩テープは使用していませんが、参考として説明します。前身頃肩の地の目は横バイアスなので、多少の動きを必要とします。もしストレートテープを使ったとすると、テンションが強すぎて攣れシワが出てしまいます。ハーフバイアステープも縦バイアスになるので、前身頃肩の横バイアスに使用するとストレートテープと同じ結果になります。従って、バイアステープやストレッチテープ又はトリコットテープをお勧めします。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

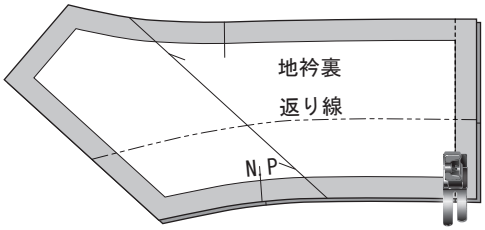
【工程No32】前身頃・後身頃肩合わせ地縫い及びアイロン処理



【工程No32説明】
※ミシン地縫いを直接行わず、躾仮縫い止めをしてからミシン作業をお勧めします。
※肩を縫う時は、絶対に伸ばさないよう注意してください。また、ミシンのテンションも強くならないよう注意してください。
※アイロン処理は、ネックから３cm入ったところから肩先の３cm手前までは少しイセぎみにアイロンを掛けます。そして、前肩部分に余りがくるようにアイロン操作を行います。

【工程No33】地衿へ接着芯貼り(縫製工程最初の頁を参照)。

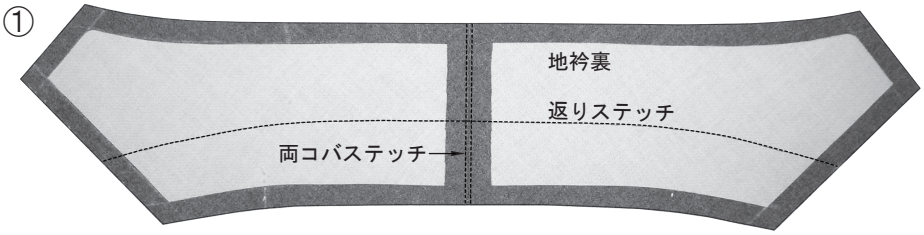
【工程No34】後中心合わせ地縫い



【工程No34説明】
※芯地は平織りの少し張りがある素材を使用しているので出来上がりにカットしています。
※地衿を中表に合わせて後中心をミシン地縫いします。

【工程No35】後中心両コバステッチ

①



【工程No35-①説明】
※後中心合わせ地縫いの後はアイロンで縫い代を割ります。
※後中心の縫い代が立たないように、縫い目を挟んで両コバステッチを掛けます。
※次に地衿は返り位置にステッチを掛けます。これは、返りの位置が伸びないように安定させる意味があります。

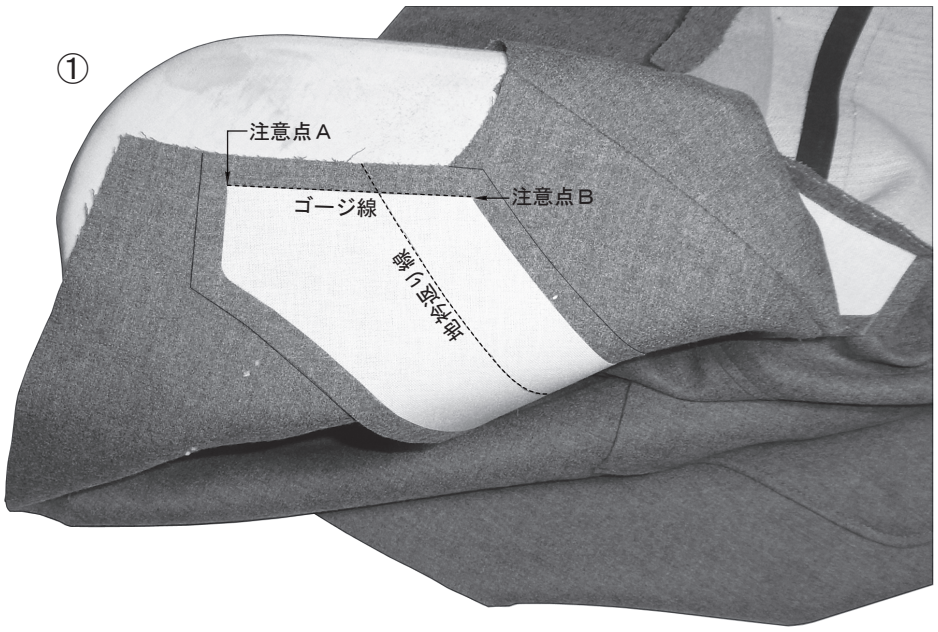
②



【工程No35-②説明】
※地衿表側から見たステッチ完了の状態です。地衿は通常見えないパーツですが、中心の縫い目に対して両コバステッチが左右均等に平行であることが大切です。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

【工程No36】前身頃ゴージ・ネック、地衿合わせ地縫い



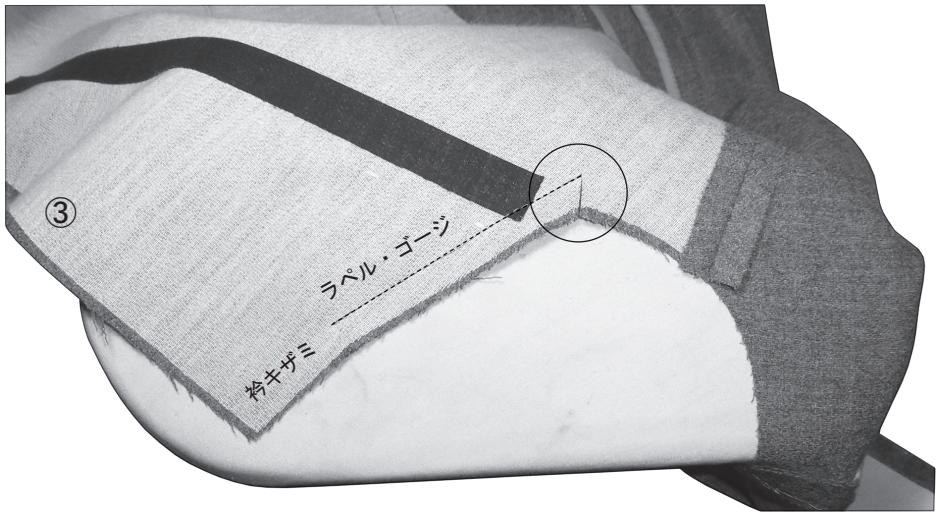
【工程No36-①説明】
※注意点Ａから注意点Ｂまではゴージ線になります。注意点Ａは衿キザミの出来上がり位置で、注意点Ｂはゴージとネックラインの交点になります。正確に出来上がりの位置を印してミシン縫いを行ってください。

※左右のゴージを躾仮縫い止めしてから、最初にゴージ線のみミシン縫いを行います。



【工程No36-②説明】
※左右ゴージのミシン地縫いが終ったら、次にゴージとネック・ラインの交点に鋏を入れカットします。この部分の作業は切り過ぎるとボロが出てしまい、切るのが足りなくても部分が擘れてしまうので注意が必要です。

※0.5㎜手前で切り終わらせるのが理想です。



【工程No36-③説明】
※丸の部分はゴージとネック・ラインの交点に鋏を入れカットが終わった状態です。

※この工程の作業は左右対称になるよう心掛けてください。特に衿キザミは大変目立つ箇所です、丁寧に作業を進めてください。

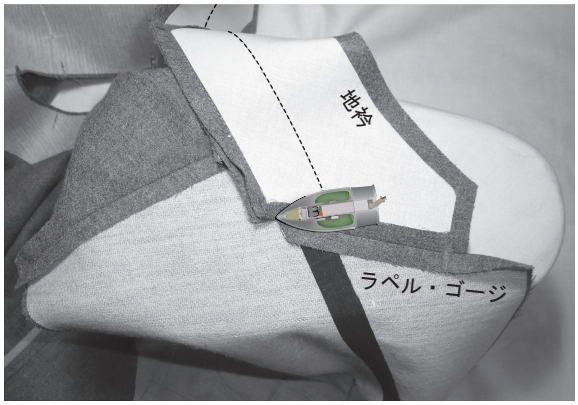
掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。



【工程No36-④説明】
※地衿腰と身頃ネック・ラインが縫われた状態です。地衿の衿腰とネック・ラインの地縫いを行う前に躾仮縫い止めをしてからミシン縫いを行ってください。
※躾仮縫い止めの際、地衿腰の長さと身頃ネック・ラインの長さを確認します。地衿と後身頃の中心までの長さが合っていることと、地衿のネック・ポイントと身頃の肩縫い目が合っていることが大切です。
※切り込みを入れたゴージとネック・ラインの交点は開きます。

【工程No37】前身頃ゴージ・ネック、縫い代アイロン割り

①



【工程No37-①説明】
※左右ゴージの縫い代からアイロン割りをします。伸ばさないよう注意してください。

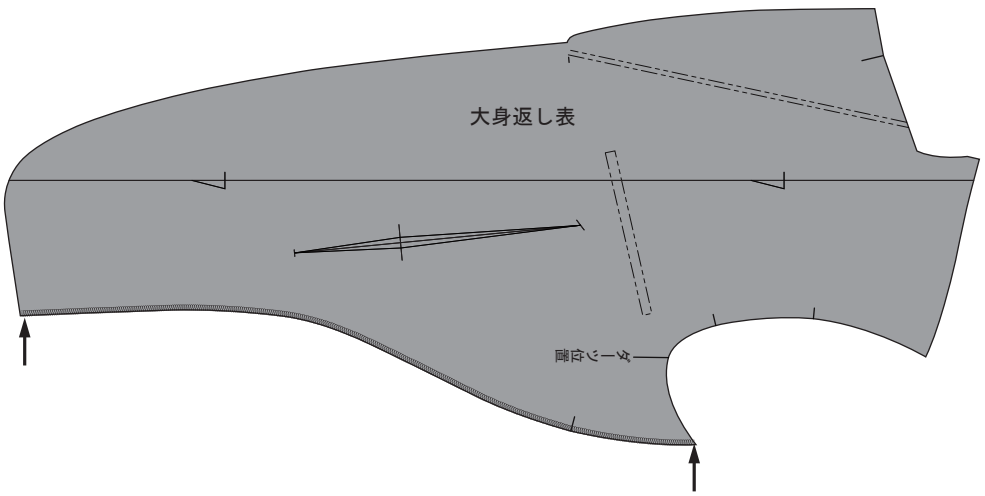
②



【工程No37-②説明】
※身頃のネック・ライン曲線をベースに縫い代を割ります。身頃側の縫い代を少し伸ばすように割ります。

【工程No38】大身返しへ接着芯地貼り(縫製工程最初の頁を参照)。

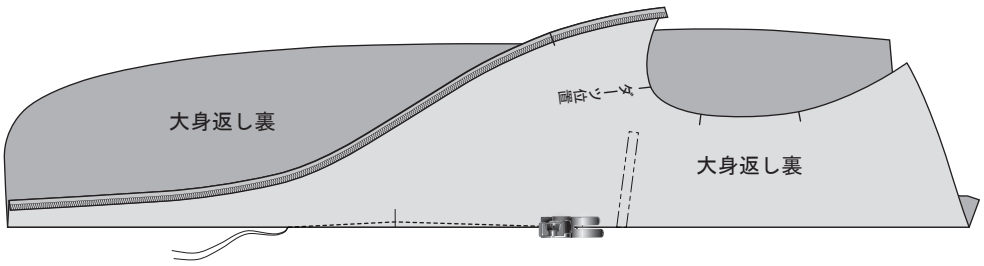
【工程No39】大身返し脇、オーバーロック処理



【工程No39説明】
※矢印から矢印までオーバーロック・ミシンを掛けます。そして0.7cmアイロン折りをして３㎜～５㎜巾のステッチで止めます。他の仕様では掬いミシンで処理する方法や接着芯と合わせ縫いをし、返して接着する方法もあります。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

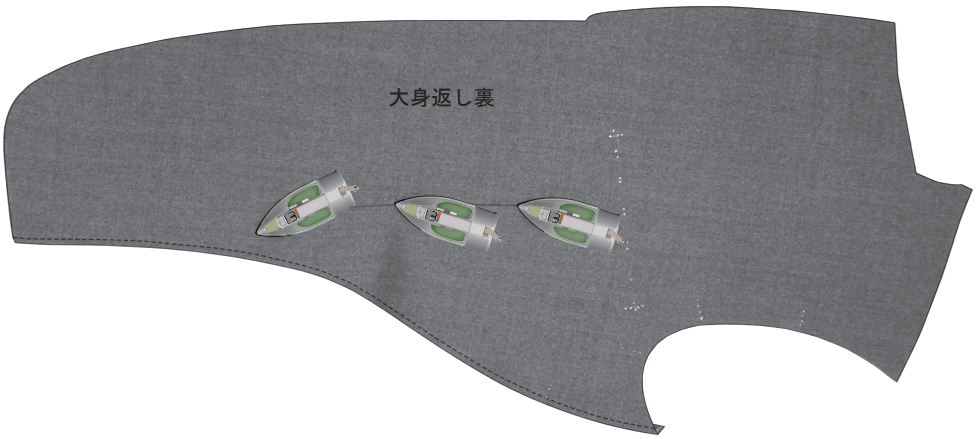
【工程No40】大身返しダーツ縫い



【工程No40説明】
※ダーツ縫いは、縫い始め・ウエスト・縫い終わりと、全て角にならないよう体の曲線に合わせて縫ってください。

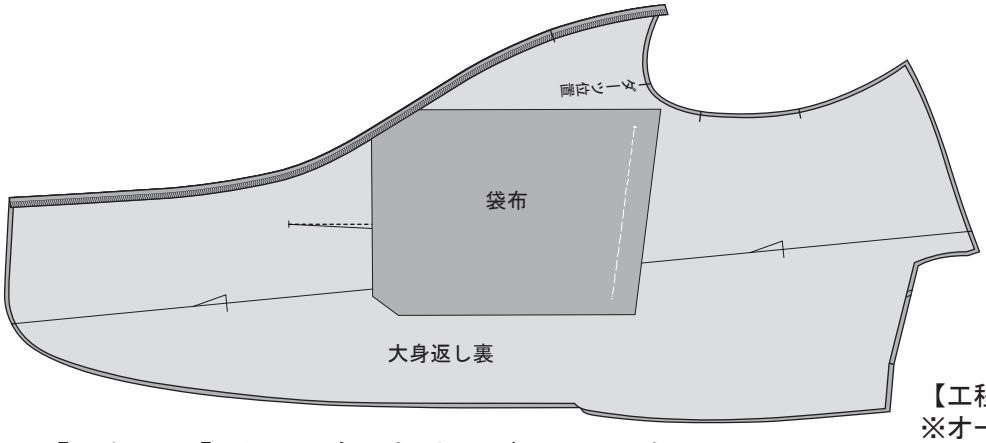
※８cm程糸を延ばして始め、後で結びます。

【工程No41】ダーツ前側へアイロン倒し



【工程No41説明】
※裏側のダーツは前に倒します。ダーツはアイロン処理を行いますが、裏は接着芯を貼っていてアイロンが滑らないので、表から少しダーツ処理をします。
※ダーツの先は少しイセを入れ、ウエスト位置の余りを少し脇側に移動します。

【工程No42】裏側へ袋布を１枚躾縫い止め



【工程No42説明】
※大身返しの裏側へ、袋布を１枚躾縫い止めをします。躾縫い止め位置は、片玉縁巾の真ん中です。糊を付けてアイロンで貼る方法は簡単で楽ですが、玉縁が糊で硬くなるので躾縫い止めをお勧めします。

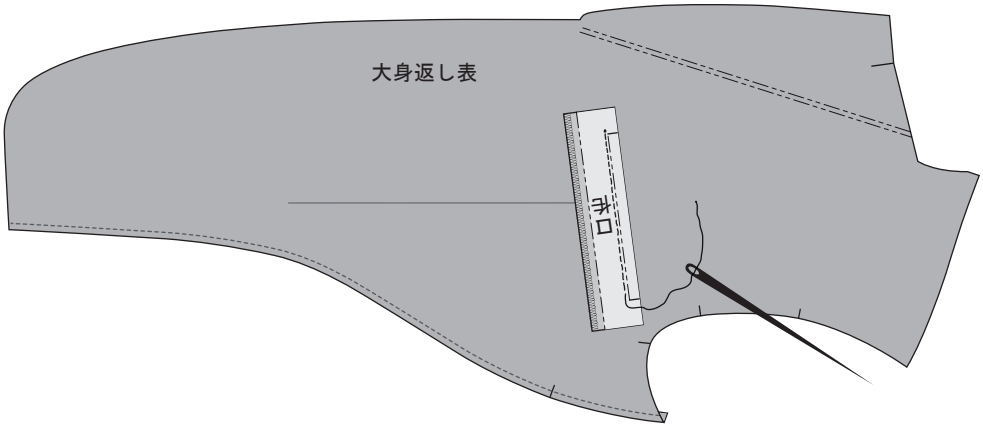
【工程No43】内ＰＬ口布下側オーバーロック処理



※オーバーロックは表側から

【工程No43説明】
※オーバーロックは表側から掛けてください。片玉縁巾が８mmであれば、口布の長さは4cmあれば良いでしょう。力芯として接着芯を貼りますが、口布全体に貼ると硬くなるので、３cm程が良いでしょう。

【工程No44】表側へ口布を躾仮縫い止め



【工程No44説明】
※袋布の躾縫い止めをした躾糸を片玉縁の中心にし、片玉縁出来あがりの際を躾縫い止めします。
※基本的にはミシン縫いの際、動かないように躾縫い止めが必要です。

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニヨンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

メンズ技術大百科-テーラード風カジュアル・ジャケット編-　サンプルはいかがでしたでしょうか。

今回のサンプルでは、ソーイングのごく一部分のみの発表でしたが、本編では、パターン作成・ソーイング共に図をふんだんに取り入れ解説しています。

サンプルを見て、今の自分に本当に必要かどうかを良く考えた上で、もし必要であるならば、下記のサイトよりお買い求めください。
http://www.encyclopedia.iguma.net/

現時点で必要ない場合、又は、「このサンプルだけで知りたい事がわかっちゃった！」という方は、必要になったときに、またメンズ技術大百科を思い出してください。急に販売停止にしたりしません。いつまでもあなたをお待ちしております。

それではまた、本編でお会いしましょう。

井口　喜正

※【電子書籍のご購入を検討されている場合】

電子書籍版をご購入の場合、もちろんそのままパソコンを使用してメンズ技術大百科を活用して頂いても構いませんが、より素早いページ検索と情報の一元化の為、印刷を推奨しています（個人用途に限ります）。

例えば、印刷したページを別途購入したバインダー等に保存し、学習上気付いた事などを一緒にファイリングしておくと大変便利です。また、メンズ技術大百科には、【〇〇を参照】などの記載も多いので、電子書籍と印刷したバインダーの両方を活用すれば、参照ページの確認も素早く行えます。

よって、もし上記のように活用したいとお考えの場合は、今回ご提供したサンプルがプリンターで綺麗に印刷できるかどうかをご確認ください。